



令和5年度 第2回 大阪府部活動の在り方に関する研修会

教育庁保健体育課 競技スポーツグループ

【資料2】
実践発表に係る提供資料

報告内容

地域クラブ活動体制整備事業における実践発表について

令和5年度 地域スポーツクラブ活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業) 成果報告書より

豊中市都市活力部 スポーツ振興課
豊中市教育委員会 学校教育課

1. 実証事業に取り組むにあたって

2. 実施状況について

3. 今後に向けて

実証事業に取り組むにあたって

豊中市について

人口：398,934人（令和6年1月1日現在）

面積：36.6 km²

学校数：中学校16校、義務教育学校1校



1. 実証事業に取り組むにあたって

実証事業に取り組むにあたって

	運動部	文化部	計
顧問延べ人数(人)	606	178	784
専門的指導ができる教員(%)	54.3	48.9	53.1

R4 部活動実態調査より

	平成25年度	令和5年度	増減率(%)
在籍生徒数(人)	10,180	9,889	-2.9
入部生徒数(人)	8,772	8,326	-5.1
入部率(%)	86.1	84.2	-1.9
部活動設置数(部)	364	351	-3.6

部活動実態調査より

実証事業に取り組むにあたって

令和3年度

- ◆特設チームの設立
 - ・部活動指導員導入の調整

令和4年度

- ◆特設チームにて
 - ・部活動指導員導入
 - ・部活動地域移行の検討・調整

令和5年度

- ◇学校教育課
 - ・部活動指導員拡充
 - ・部活動地域移行の実証事業

実証事業に取り組むにあたって

現況と課題

- ✓ 〈部の有無〉 ラグビー部の配置校は2校（第四中、第十二中）
- ✓ 〈活動人数〉 単独では試合出場人数（12名）に満たない
- ✓ 〈指導者〉 専門的指導教員は配置校以外の教員
- ✓ 〈活動場所〉 練習場所は第十二中を拠点として週末に合同練習

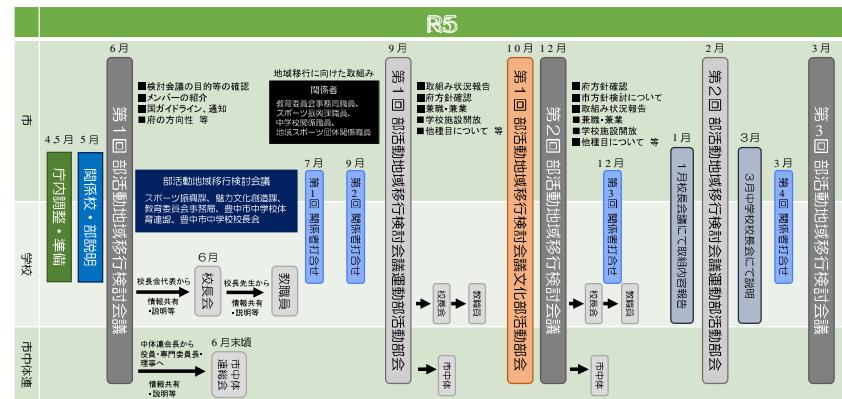
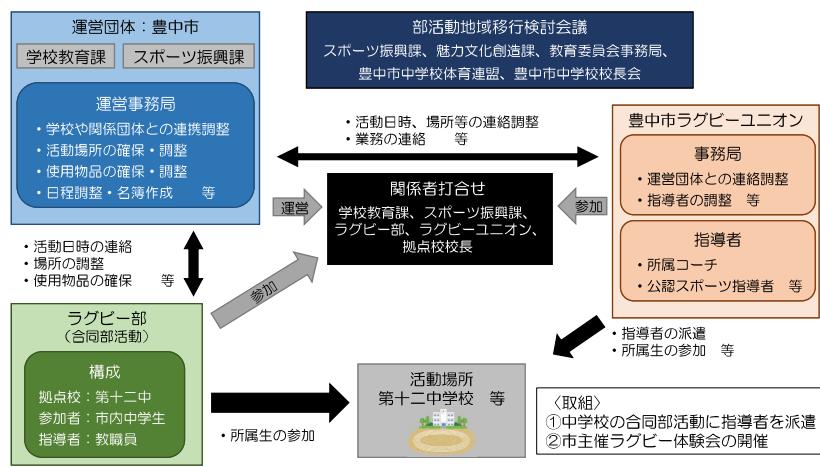
地域の実施主体



発足：1977年

加盟団体：豊中ラグビースクール 他

2. 実施状況について



部活動地域移行の取組みの方向性について

2023/6/6 学校教育課

1. 背景

- ◆学校部活動の持続性に課題（少子化による生徒数・教員数の減少、専門的指導教員の不足等）⇒地域移行に対する学校の期待大
 - ◆学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月27日 スポーツ庁・文化庁）

2. 目標

- ◆行政・地域・事業者・NPO等が一体となって、子どもたちがスポーツを続けることができる環境をつくる

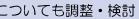
3. 現状の課題と方向性

- ◆全学校の部活動の地域移行を受け入れられるような実施主体の不足
⇒地域スポーツ運営団体との連携体制の構築、教員等による地域団体設立のルール等の整理
 - ◆指導者の確保
⇒教員の兼職兼業制度の整理、地域スポーツ運営団体・実施主体とのマッチング
 - ◆活動場所の不足
⇒学校施設等の活動場所の確保、施設利用の効率的な運用等の検討、利用ルール等の策定
 - ◆家計所得による機会格差拡大の懼れ
⇒参加費・保険料等の経済的困難世帯への支援

部活動地域移行の取組みの方向性について

2023/6/6 学校教育課

4. 実現に向けた取組み

フェーズ	目標	具体的な取組み
フェーズ1 令和5年度～ 令和7年度 国が設定する 改革推進期間	<ul style="list-style-type: none"> 休日の部活動の地域移行 平日の学校部活動の持続可能性を担保 	<p>次のような様々な方法の組合せて、学校単位or複数校単位としての地域移行をめざす</p> <p>①学校部活動の地域連携として部活動指導員拡充と部活動指導協力者の活用 ②設置校・部員が少ない種目から地域移行に向けた検討・調整・実施 ▶合同練習の促進・交流試合の設定等 ③設置校・部員が多い種目についても調整・検討</p>  <p>★地域移行の類型例として、まずは、地域団体・地域人材と連携した形態をめざす</p> <p>◆部活動地域移行検討会議の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国ガイドライン・府方針・市の方向性の共有 ・教員・児童生徒・保護者へのアンケートの検討 ・教員の兼職兼業制度の検討 ・学校施設利用の検討・ルール等策定 ・経済的困難家庭への支援の検討 <p>※定期的（2・3ヶ月に1度程度）開催し、課題の共有・検討を行なう</p> <div style="background-color: #e0e0ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>部活動地域移行検討会議メンバー</p> <p>スクーツ振興課、魅力文化創造課、学校教育課、 学校施設設備課、学習支援課、社会教育課、 教職員課、市民ひきうえ支援課、中央公民館、 豊中市中学校体育連盟、豊中市中学校校長会</p> </div>

実施状況について

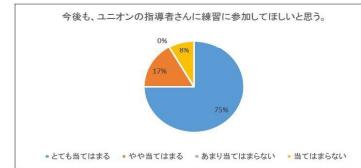
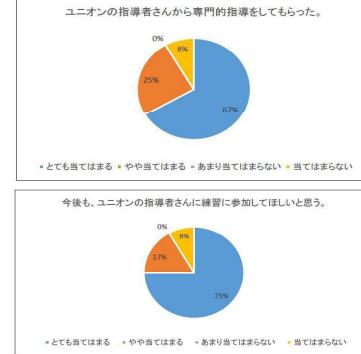
指導者派遣型体験会

実施部活動	ラグビー部（構成：市内8校28名）
主な活動場所	第十二中学校（拠点校）
活動日	土曜日
活動期間	9/30（土）から開始 計6回実施
参加生徒人数	20数名程度/回
指導者	32人（延べ人数）※ユニオンから派遣
指導者謝礼金	1,582円/時間（市部活動指導員と同額）



実施状況について

指導者派遣型体験会アンケート



実施状況について

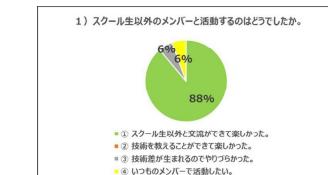
市主催ラグビーラグビーフィールド

実施種目	ラグビー
会場	マリンフード豊中マルチグラウンド
日程	令和5年（2023年）12月2日
対象者	市内在住の小学校5年～中学校2年
参加者	36人
加入保険	スポーツ安全保険 A1区分
指導者	ラグビーユニオンより8名派遣



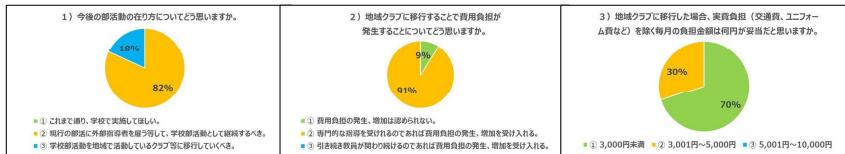
実施状況について

市主催ラグビーラグビーフィールドアンケート



実施状況について

保護者負担費についてのアンケート



【その他意見】

- ・クラブに移行すると勝利至上主義による暴言、暴力やテスト期間の休暇の配慮の欠如が起こりうるのが心配。
- ・学校外の活動となると、怪我したときの対応や保険など安全面での不安が残る。
- ・子ども達の成長の機会や好きなことの打ち込める環境の維持は必要である。
- ・部活動はこれまで通り、学校内で活動を継続してほしい。
- ・3,000円程度であれば実費負担は仕方がないと思うが一部公費負担もすべきだと思う。

実施状況について

関係者打合わせで出た主な意見

- ✓ 〈地域スポーツクラブへの参加〉 学校とのスムーズな連携
- ✓ 〈大会出場〉 大阪中体連の主登録についての整理
- ✓ 〈人材確保〉 指導者や後継者について
- ✓ 〈拠点校制度の整理〉 平日の活動を見据えたときの対応
- ✓ 〈部活動指導への対価〉 勤務時間以降の指導に報酬等が支払えるシステム
- ✓ 〈週休日の会議〉 教員への対価について
- ✓ 〈市費〉 地域の指導者への市費の使い方

3. 今後に向けて

今後に向けて

成果と課題

【成果】

- ・関係者打合せの中で、学校現場や実施主体における課題点の洗い出しができた。
- ・部活動地域移行検討会議を重ねることにより、教育委員会、市長部局、市中体連、校長代表との連携を図ることができた。

【課題】

- ・取組み内容の学校等への周知
- ・教職員の兼職兼業の整理（平日含む）、保護者負担費の在り方
- ・部活動コーディネーターの配置
- ・地域スポーツクラブへの移行時期と移行形態

今後に向けて

課題解決に向けて

〈学校への周知〉 ⇒ 校長会会議、中学校校長会等にて説明

〈兼職兼業、保護者負担費〉 ⇒ 部活動地域移行検討会議での検討（担当課との連携）

〈コーディネーター配置〉 ⇒ 公募、委託の検討、実施

〈地域スポーツクラブへの移行〉 ⇒ 最終ゴールの認識合わせ



他種目の地域移行への取組みはどうするか



部活動地域移行へ

～持続可能で中学生が活躍できる新たな場所～

令和6年2月8日（木）

大東市教育委員会事務局

学校教育政策部 指導・人権教育課



I. 大東市の概要

本日の流れ

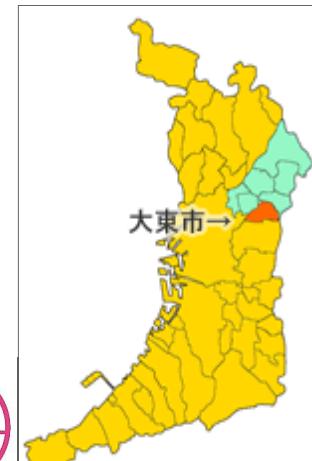
1. 大東市の概要
2. 本市の部活動地域移行の経緯について
3. 本市の部活動地域移行の取組みについて
 - (1) 運営形態・費用
 - (2) 実施状況・生徒の様子
 - (3) 成果と課題
4. 今後に向けて

最後までどうぞよろしくお願ひいたします！



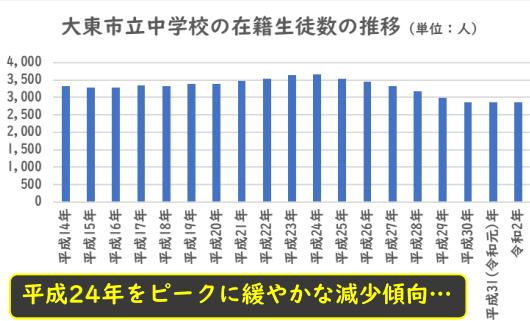
I. 大東市の概要

- 今年で市制67年め
- 大阪府東部に位置する
(奈良県に隣接)
- 市の東部3分の1は生駒山地
中央部～西部は住居系・工業
系地域が広がる
- JRが東西に通り、大阪市中心
部まで約17分



I. 大東市の概要

- 市立中学校は8校
- 市立中学校の在籍生徒数は2667名（令和5年5月1日時点）



学校名	生徒数
南郷中	490名
住道中	443名
四条中	222名
深野中	406名
北条中	158名
谷川中	342名
諸福中	380名
大東中	226名



2. 本市の部活動 地域移行の経緯について

I. 大東市の概要

- 市立中学校8校にのべ105の部活動が設置
- 生徒数の減少等にともない、部活動の統廃合に取り組み始めた学校も
- 放課後の部活動を保護者による見守り活動に移行した学校も

部活動のあり方が見直される転換期となっている！

2. 本市の部活動地域移行の経緯について

- 部活動地域移行に関する意見交換会
 - ・令和4年度は3回開催
 - ・令和5年度に向けた方向性について議論

【意見交換会の構成メンバー（令和5年度）】

- 市教委：指導・人権教育課長／担当指導主事／総括CO
- 学校：市中体連会長／市中体連事務局長
- 保護者：市PTA協議会会长
- 行政：市スポーツ推進委員代表／スポーツ振興課長

※その他、必要に応じて有識者を招聘

剣道部・メディア部を地域移行へ！



2. 本市の部活動地域移行の経緯について

●学校関係者との相談・連携【剣道部】

- ・市専門委員長との相談
- ・市顧問会議への出席・説明
- ・中学校校長会との連携

●指導者の確保

- ・学校関係者のつながり【剣道部】
- ・オンラインでの公募【メディア部】
- ・専門学校へのチラシ配付【メディア部】



3. 本市の部活動 地域移行の取組みについて

2. 本市の部活動地域移行の経緯について

●実証事業における本市の取組内容（概要）

- ① 「部活動地域移行総括コーディネーター」の配置
- ② 「部活動地域移行に関する意見交換会」の開催継続
- ③ 運動部においては「剣道部」を地域へ移行
- ④ 文化部においては「メディア部」を新設、地域へ移行

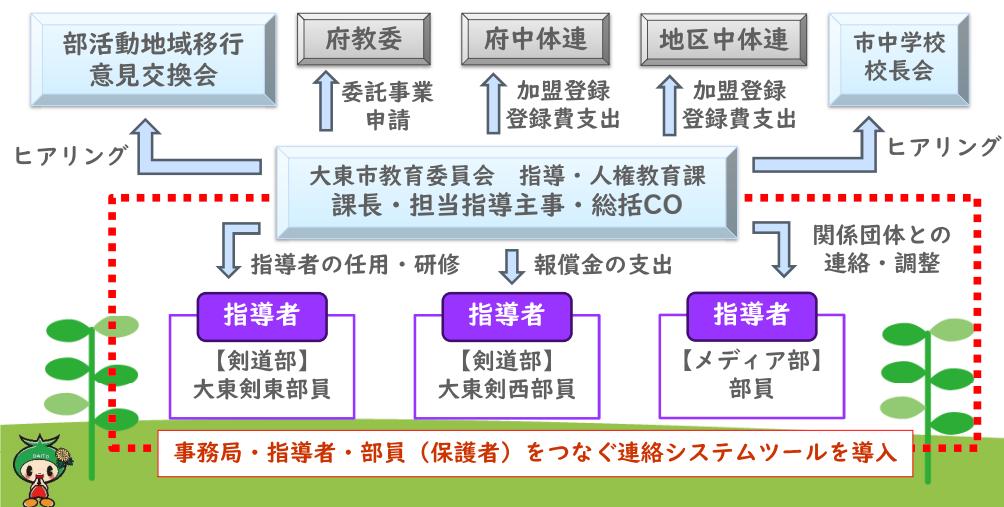
運動部・文化部ともに地域移行の
実証事業に取り組んでいるのは、
大阪府下では大東市のみ！

※政令指定都市を除く



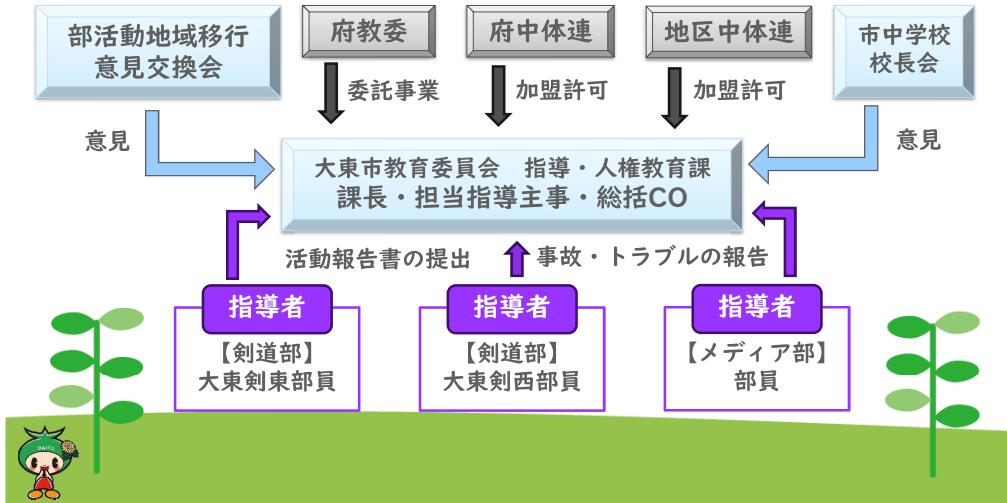
3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(1) 運営形態・費用



3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(1) 運営形態・費用



3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

●剣道部【大東剣東・大東剣西】

	大東剣東	大東剣西
エリア	大東市東部	大東市西部
所属校 ★剣道部既存校	四条中 ★深野中 北条中 ★谷川中	★南郷中 ★住道中 諸福中 大東中
活動場所	深野中体育館	南郷中体育館
指導者数	3名	3名
部員数	20名	20名
活動回数	休日のみ月4回程度	休日のみ月4回程度

2つの団体ともに中体連へ加盟済み

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(1) 運営形態・費用

●受益者負担額=0円

※活動に係る交通費や道具・ユニフォーム等にかかる費用は原則、自己負担

●必要経費は市予算+実証事業による補助

【令和5年度予算額（概算）】 総額：約360万円

●諸謝金：約269万円（総括CO・指導者）

●費用弁償：約15万円（総括CO・指導者）

●備品購入費：約36万円

●消耗品費・運営費：約40万円

（消耗品・保険料・連絡ツール・中体連登録費など）

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

●剣道部【大東剣東・大東剣西】



3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

● メディア部

メディア部	
エリア	大東市全域
所属校	★南郷中 ★住道中 四条中 深野中 ★放送部既存校 北条中 谷川中 ★諸福中 ★大東中
活動場所	大東市立北条コミュニティセンター
指導者数	4名
部員数	17名
活動回数	休日のみ月2回程度

動画撮影・編集



いわゆる「放送部」とは一線を画した活動です！

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

● 指導者について

【剣道部】

- ・元警察官
- ・元校長
- ・現職教員（兼職兼業）



指導者対象の
体罰防止研修会の開催
など

【メディア部】

- ・声優関係専門学校の卒業生
- ・元ラジオDJ
- ・元演劇教室スタッフ



3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

● メディア部

声優活動練習



野崎高校生徒会へのインタビュー



3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(2) 実施状況・生徒の様子

● 参加している部員の声

部活動地域移行は
心・技・体の育成に！

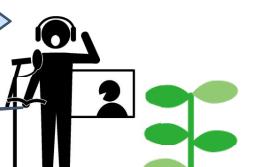


今まで、部員2人と先生とで練習していたけれど、
自分より強い生徒と練習できてうれしい！

人数がたくさんいるので、団体戦にも出場できるよう
になり、たくさん試合に出られるようになった！

コーチが「一回大きな声で演技すると吹っ切れるよ」と言ってたから、やってみたら本当に吹っ切れて自信が持てた。声優っていいよね！

いつもの学校の仲間とは違う人と友だちになって、同じ目的を持って動画をつくったりするのはとても楽しい！



部員の満足度
約80%

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(3) 成果と課題 【部活動地域移行全般】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">●部員の技術の向上のみならず、コミュニケーション能力や社会性の育成の一助に●教員の負担軽減につながり、働き方改革の一助に	<ul style="list-style-type: none">●学校を通さずに連絡することの難しさ●本業の転勤・転職による指導者の辞退●各校の定期テスト・休行事で参加者数が不安定●物品購入や予算執行の手続きに時間がかかる●予算の増大

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(3) 成果と課題 【メディア部】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">▲地元の高校・専門学校・大学・警察署・報道機関等との連携の強化▲外部団体とのコラボ活動等を通じて、部員が自信を深めることが可能に	<ul style="list-style-type: none">▲活動内容について、毎回指導者との打合せが必要▲活動範囲が多岐に渡るため、多様な指導者の確保が必要▲「部活」と「授業」の違いが不明瞭な状態▲機材の保管が難しい▲能力やモチベーションの個人差が大きい

3. 本市の部活動地域移行の取組みについて

(3) 成果と課題 【剣道部】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">◆学校では少人数のため十分に活動できなかった部員が、練習相手や実績のある指導者がいることで充実した活動に◆地元の高校等との連携の強化	<ul style="list-style-type: none">◆JSPO資格の取得（大阪）◆スポーツ安全協会の保険手続きの煩雑さ◆試合に勝てば勝つほど、活動回数が増え、予算も増加する◆平日に練習がある学校とない学校の差

4. 今後に向けて

4. 今後に向けて

●本市の中長期的なビジョン

部活動の地域移行を次年度以降も継続・拡大する

事務局機能を安定化させる

学校側の意向を汲みながら、課題をクリアした部活動から
順次、移行・新設を進める

将来的には休日部活動の完全移行へ



4. 今後に向けて

●令和6年度の事務局機能の強化策



4. 今後に向けて

●令和6年度の方向性

I. 既存の学校部活動を地域移行（働き方改革）

- R5.4～ 剣道部
放送メディア部
- ◆R6.4～ 水泳部

2. シン・地域部活動（新たな輝きの場）

- ◆R6.4～ eスポーツクラブ【スクール】
Cool Japan Club(けん玉、将棋…)

3. 試合出場を目的としない運動部

- ◆R6.5～ のざきbスクール（バスケ）
→ 大学や高校との連携拡大

諸課題を解消し、
令和8年度の事務業務委託をめざす

最後に…

●大東市教育委員会【公式】ちゃんねる

https://www.youtube.com/results?search_query=%E5%A4%A7%E6%9D%B1%E5%B8%82%E6%95%99%E8%82%B2%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A

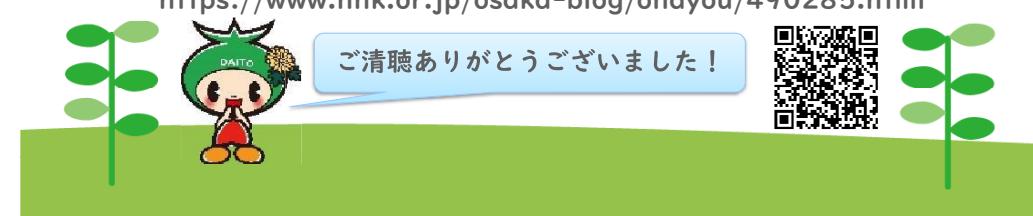


●NHK おはよう関西（令和5年12月11日放送）

「新たな部活はメディア部・地域人材活用で」

<https://www.nhk.or.jp/osaka-blog/ohayou/490285.html>

ご清聴ありがとうございました！



地域クラブ活動体制整備事業における実践発表について

岸和田市教育委員会スポーツ振興課

①事業実施にあたって

▶ 本事業を希望した背景（きっかけ）

I 少子化が一層進む中、「学校単位」での活動、「教員が指導する」を前提とした、「運動部活動」という生徒にスポーツ活動の機会を提供する仕組みは、持続が困難な状況

II 学校単位で教員が指導する運動部活動に代わって、地域でスポーツの機会を将来にわたり確保できるよう、生徒が地域でスポーツに親しめる環境づくりが必要

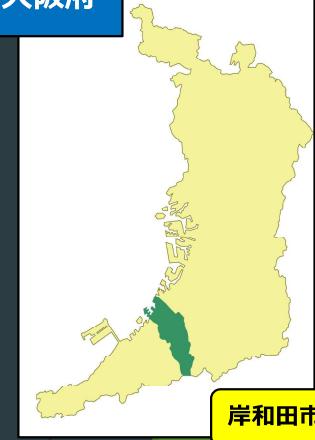
III 「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という考え方の下、生徒が望ましい成長をできるように、地域で持続可能な一体的な環境を整備することで、地域に応じたスポーツ活動の最適化を図り、子どもたちの体験格差の解消をめざす



岸和田市について

大阪府

人口：188,129人
<令和5年11月1日現在>
公立中学校数：11校
中学校生徒数：4,764人
運動部活動数：135部活
生徒数：2,436人
加入割合：51.1%
文化部活動数：33部活
生徒数：663人
加入割合：13.9%
<令和5年7月1日現在>

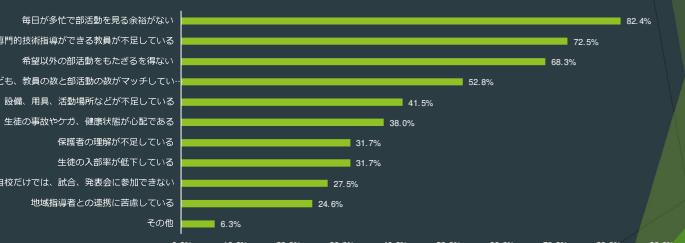


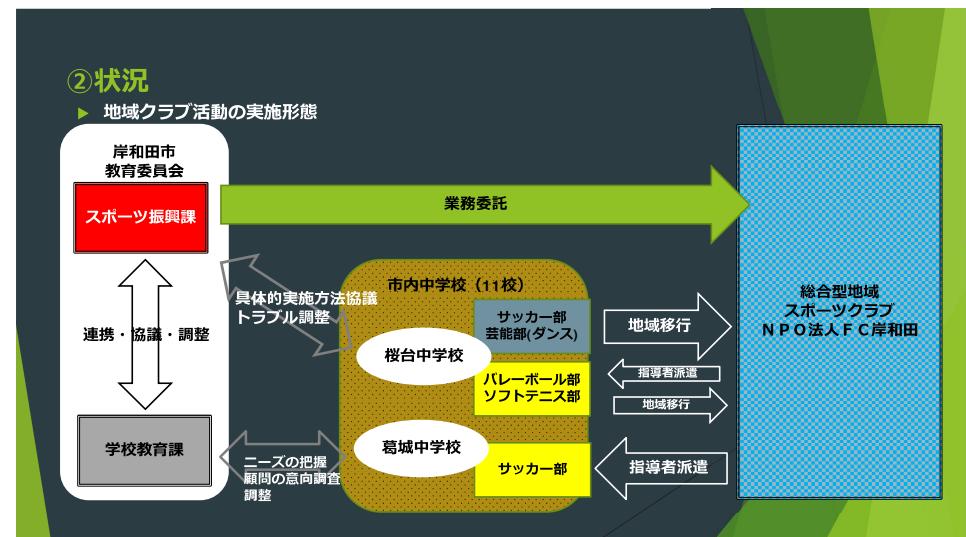
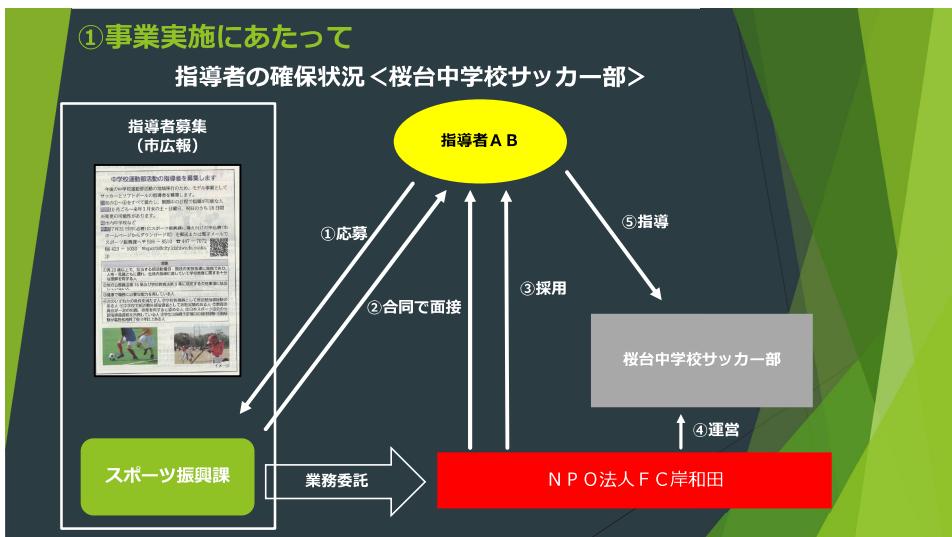
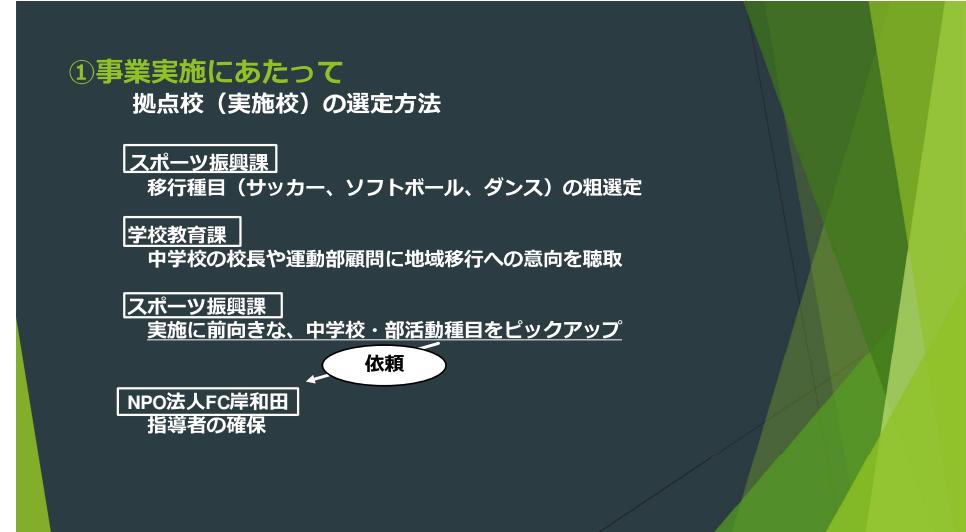
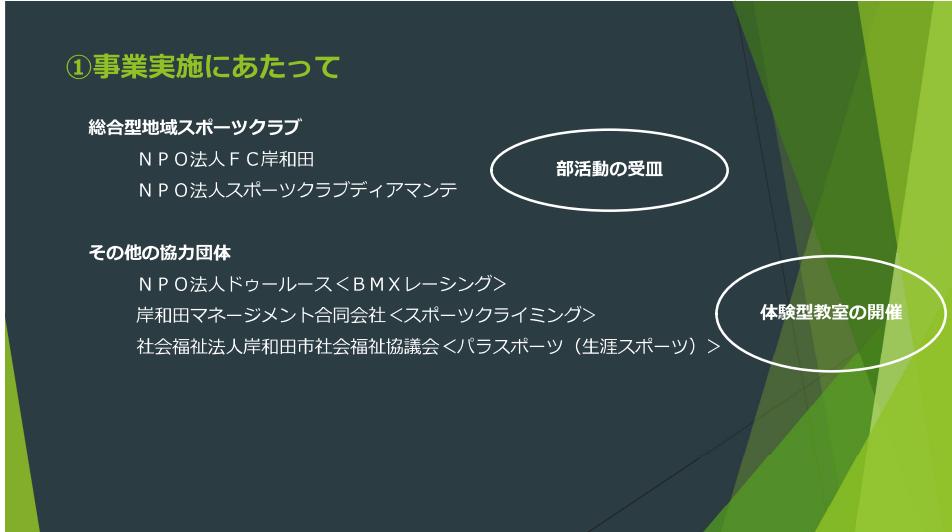
①事業実施にあたって

岸和田市中学校部活動（地域移行を含めた）に関するアンケートより

対象：岸和田市立中学校 すべての教職員
調査期間：令和5年1月10日（火）～2月3日（金）

●中学校の部活動の「問題点」は何だと感じていますか





②状況

▶ 保護者への説明

令和5年10月10日

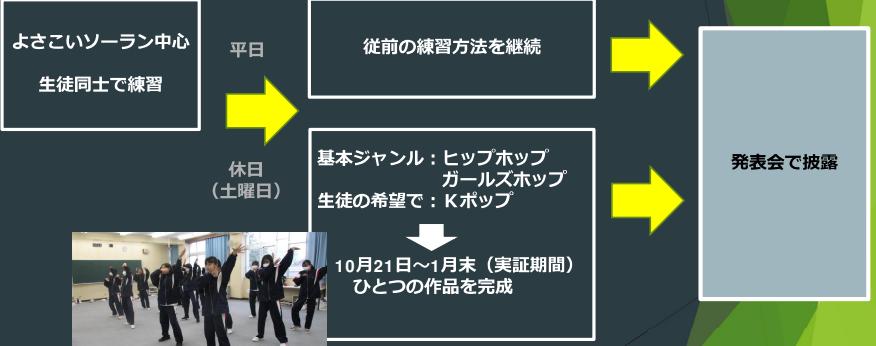
桜台中学校サッカー部・芸能部保護者説明会開催

<説明内容>

- ・地域移行の背景
- ・地域スポーツクラブ活動体制整備事業の趣旨
- ・事業のイメージ・休日の部活動を地域スポーツクラブ活動へ
- ・委託先・NPO法人FC岸和田
- ・実施時期・令和5年10月～6年1月末
- ・指導管理・スポーツ安全保険に加入
- ・参加申込・同意書の提出
- ・参加費・無料

②状況

●桜台中学校芸能部（ダンス）



②状況

桜台中学校芸能部生徒に

「FC岸和田からダンスの先生を迎えて練習することについて、どのように思うか」

と、質問した結果、

▶ <回答内容>

「みんなと踊れる時間が増えて楽しいし、うれしい」

「色んなジャンルを踊れて楽しい」

「むずかしいダンスもあるけれど楽しい」

など、みなさんが「楽しい」という意見で、

大変好評でした！

<令和5年12月16日インタビュー

(当日、練習参加者16名) >

②状況

桜台中学校サッカー部生徒に

「土曜日の地域移行の活動をどう思っているのか」、聞いてみました！

「練習メニューがしっかりと組まれており、バランスがいい練習ができる」

「新鮮な気分になれるので、楽しみにしている」

「いつもと違うことを学べるので楽しい」

その他の意見としては、

「顧問の先生の負担が減るのがいい」という意見もありました！

みなさん、地域移行に肯定的でした！

<令和5年12月23日インタビュー

(当日、練習参加者22名) >



②状況

ラヂオきしわだ（FM 79.7MHz）

「きしわだレボリューション」

（R5.11.5～6.1.28 毎週日曜日、午後4時から15分間）

内容：岸和田市民のスポーツに関する話題を扱う番組

第12回「中学校部活動の地域移行」

（令和6年1月21日（日）午後4時放送）

桜台中学校芸能部（ダンス）

桜台中学校サッカー部

活動の様子・地域移行に関する

インタビューを放送！



②状況

▶ 苦労した点（岸和田市で特徴ある施設等を活かした体験型教室）

※BMXレーシング・バラスポーツ（生涯スポーツ）

12月・1月の土曜日（午前中）に各4回開催で募集

募集方法等：市内中学校の1・チ年生に向けてチラシ配布

⇒<結果>応募者なしで開催できず

●応募者なしの原因

・募集種目に関心なし

（BMXで、中学生から始める人は少ない）

・日程が重複のため（既存の部活動、習い事）

●今後の対応方針

・生徒のニーズの把握したうえで募集種目を選定

・生徒が集まりやすい時期や回数を考慮

・体験会的イベントも考慮

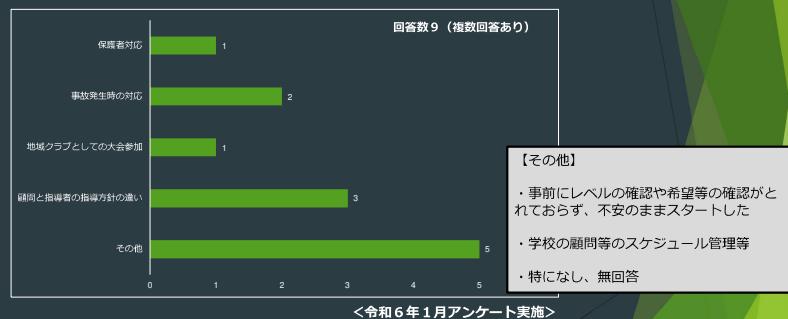
※スポーツクライミングは、委託予定先の諸事情により契約成立せず



③今後に向けて

▶ 指導者アンケートによる課題

質問：地域クラブ活動の指導にあたり、課題はありましたか



③今後に向けて

▶ 取り組むことから生まれた新たな課題等について

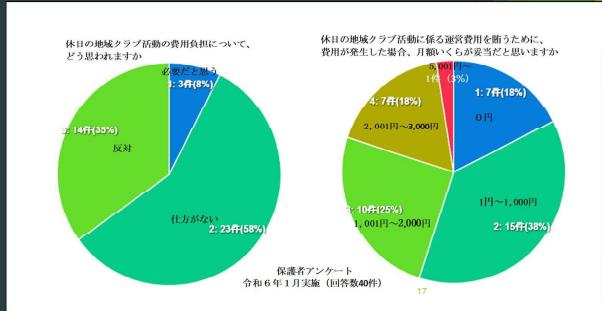
指導者派遣から地域移行（学校との切り離し）



③今後に向けて

▶ 費用負担について（保護者アンケート）

「費用負担」については、「反対」の意見が3分の1あり、「費用負担の妥当額」についても、「0円」とする意見が18%あり、「部活内で費用が発生するのはおかしい」、「誰でも参加できる必要があり、経済的負担が参加の障害になつてはいけない」などの個別意見があつた。



③今後に向けて

短期的課題

顧問と指導者において情報等が共有されていない

- ・指導者アンケートの結果、指導するうえでの課題で多かったのは、顧問との「指導方針の違い」3名
- ・指導にあたり、事前にレベルの確認や要望について、指導者・顧問間で連携が取れておらず、不明点が残ったままスタート
- ・他校との練習試合の日程について、顧問から指導者への連絡漏れ

顧問が地域クラブ指導員に任せられない

- ・トラブル対応への不安がある

中期的課題

地域クラブ活動費用の保護者負担

- ・費用負担に反対の保護者が3分の1
- ・誰でも参加できる必要があり、経済的負担が参加の障害になつてはいけない

地域クラブ活動体制整備事業を活用したクラブ運営について

泉大津市立誠風中学校 佐藤 総

泉大津市教育委員会生涯学習課 吉田 侑平



レジュメ

1. 泉大津市について
2. 泉大津市立誠風中学校 吹奏楽部
3. 吹奏楽部における指導について
4. 学校としてのメリット
5. 今後の展望

地域クラブ活動体制整備事業を活用したクラブ運営について



2

1. 泉大津市について



1. 泉大津市について

人口 : 7万3,113人

世帯数 : 3万5,448人

面積 : 14.33km²

産業 : 毛布製造業が盛ん

国内産毛布の全国シェアが90%以上

「日本一の毛布のまち！」



※数値はすべて令和6年1月1日現在

4

令和5年度 国委託事業実施市②（文化部活動の地域移行等に向けた実証事業）

泉大津市

- こどもたちの多様な経験・機会確保
- 部活動に係る教職員の負担軽減

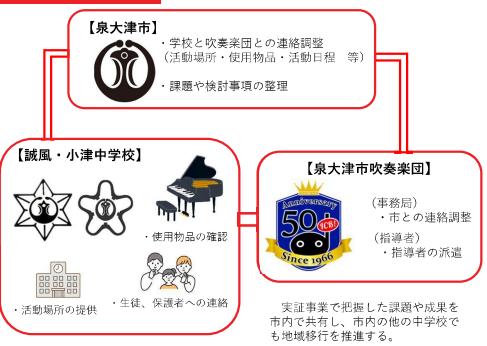


【概要】

部活動（吹奏楽部）を民間団体に委託することによる管理運営及び指導者研修会の成果、参加者が負担する金額等の検証を実証事業の中で行い、子どもにとってよりよい形での地域移行を行います。



取組概要



文化部活動の地域移行等に向けた実証事業

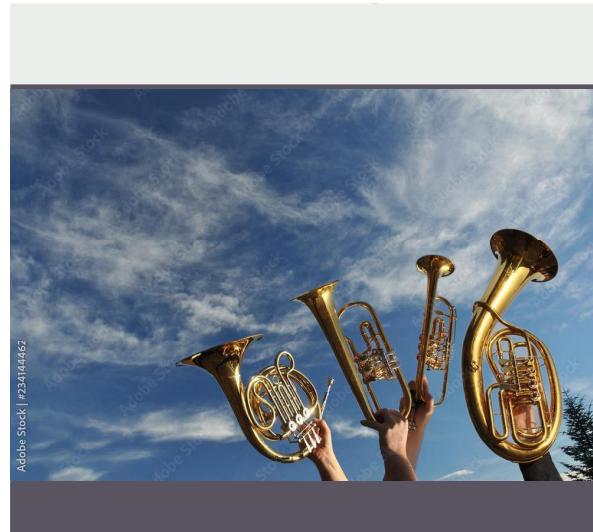
令和5年10月から

泉大津市吹奏楽団と泉大津市が委託契約締結のうえ、泉大津市立誠風中学校を活動場所とし実証事業を実施。原則、毎週土曜日午前中の部活動時、吹奏楽団員3名程度により、生徒への技術指導を行う。



第41回 泉大津市民音楽祭～吹奏楽の部～

6



2. 泉大津市立誠風中 学校 吹奏楽部

2. 泉大津市立誠風中学校 吹奏楽部

創部以来50年を越える歴史があり、多い時期では部員数100名を超える大所帯クラブです。

過去には毎年1回開催される吹奏楽コンクールにおいて地区大会代表にもなり、地域イベントや校区小学校への訪問演奏を重ねていました。

コロナ禍で活動が制限され部員数も激減

地域クラブ活動体制整備事業を活用したクラブ運営について

8

2. 泉大津市立誠風中学校 吹奏楽部

学校の建て替えによる活動場所の確保が困難になり、
部員数の減少も重なり、令和5年9月より同市小津中
学校吹奏楽部と合同練習を開始

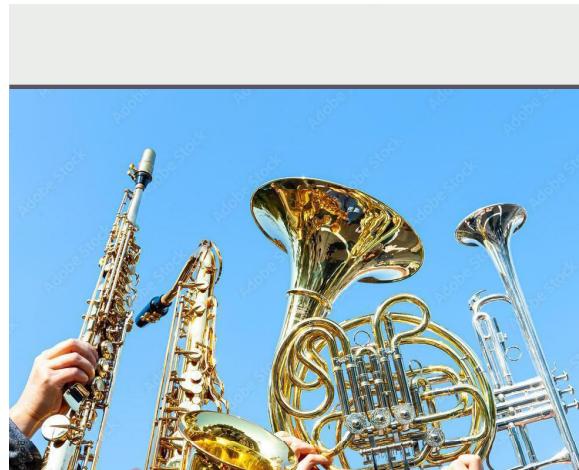
誠風中学校吹奏楽部 31名

小津中学校吹奏楽部 10名

令和5年1月末時点

地域クラブ活動体制整備事業を活用したクラブ運営に
ついて

9



3. 吹奏楽部における 指導について

吹奏楽部における指導



楽器の種類

- | | | |
|------------|----------|---------|
| <木管楽器> | <金管楽器> | <打楽器> |
| ・フルート | ・トランペット | ・ドラム |
| ・クラリネット | ・トロンボーン | ・ティンパニ |
| ・サックス | ・ホルン | ・スネアドラム |
| | ・ユーフォニウム | ・バスドラム |
| +
・チューバ | | |
| ・シンバル | | |
| ・ストリングベース | | |
| ・鍵盤 etc… | | |

合奏
指導

地域クラブ活動体制整備事業を活用したクラブ運営について

11

4. 学校としての メリット

○ 各楽器の技術指導

トランペットパート

打楽器パート

合奏指導

地域クラブ活動休制整備事業を活用した
クラブ運営について

13

○ 泉大津市吹奏楽団の地域貢献として

定期演奏会や地域イベント等の演奏会

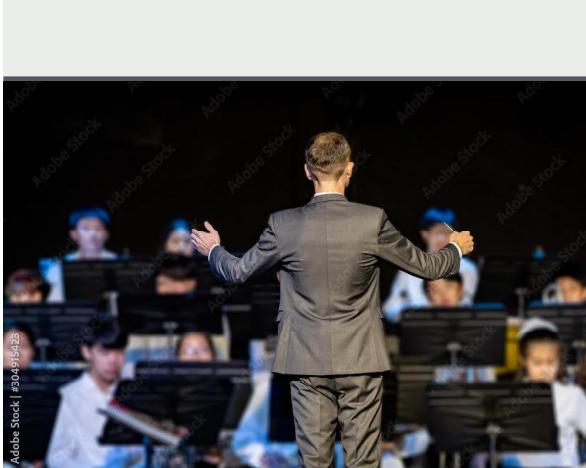
泉大津市吹奏楽団 HP



泉大津市吹奏楽団ホームページ - izumiootsu-city-band.page/jimofree.com より

地域クラブ活動休制整備事業を活用した
クラブ運営について

14



5. 今後の展望



今後の展望

- ・ 全校生徒数が減少
- ・ 吹奏楽部員の減少
- ・ 教員の**負担軽減**
- ・ **持続可能な**生徒への技術指導
- ・ 生徒の**活動の場の確保**
- ・ クラブ活動の**活性化**
- ・ 地域吹奏楽団の**活性化**

16

ありがとうございました



17

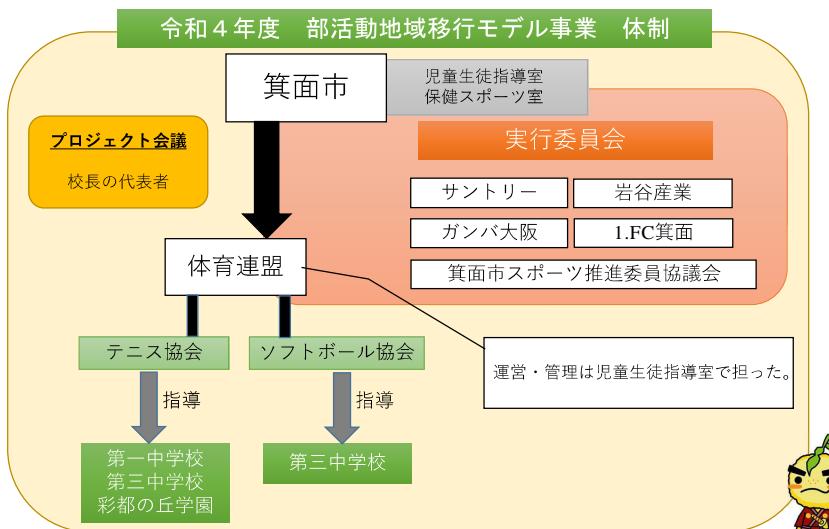
地域クラブ活動体制整備事業における実践発表 箕面市の地域クラブ活動モデル実施について

箕面市教育委員会事務局
児童生徒指導室

1



①事業実施あたって一背景



①事業実施あたって一背景

学校部活動の業務と役割

担当	業務
教育委員会	実態把握、創部・廃部、休日管理、部活動支援員 部活動費徴収・管理、部活動助成金交付
	部活動費徴収・管理 安全管理、ケガ対応、トラブル対応
学校	名簿作成、スケジュール・場所調整（予定表作成）、消耗品・備品購入、修繕、物品購入手続き（説明、承諾書、申込書等作成、発注、集金等） 大会引率、大会運営、審判、抽選会（顧問会議）、練習試合（交渉）、実施要項等作成等 生徒指導、仲間づくり、ニーズへの対応・個別対応、練習メニュー作成 技術指導

2



①事業実施あたって一背景

課題① 部活動地域移行の課題

○指導者の確保

指導の質維持・向上、指導者研修（指導の在り方、トラブル対応等について）、兼職兼業、地域団体・企業との連携

○財源の確保

地域企業との連携、スポンサー収入の可能性、受益者負担、ふるさと納税等

○意識改革

民間企業等が主体となるメリット・付加価値、経済的困窮家庭の支援方法、移動問題の解決

○運営主体

指導者派遣、勤怠管理、スケジュール調整、学校とのやりとり、連絡、情報共有、活動場所調整、出欠確認、トラブル対応、保護者・生徒連絡、集金・収納作業、保護者説明会、保険手配、企業・団体等との連携

4



①事業実施あたってー背景

課題② R4 モデル実施から見えてきた課題（昨年度振り返り）

- ブロック開催では、参加者の人数が多い。
 - 地域クラブ指導者の指導方法が、子どもたちにマッチしていない。
 - サンプル数が少ない。
 - 指導者だけでは、運営・管理はできない。運営主体が必要。
 - 学校、子ども、保護者、地域への情報発信が必要。
 - 鍵や熱中症セット、救急セットの保管場所がない。



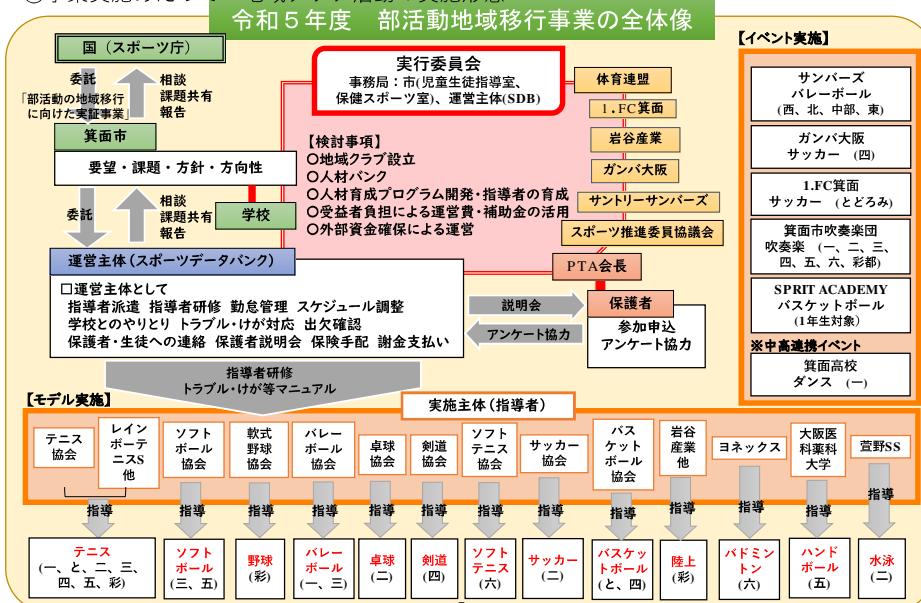
今後進めていくこと（令和4年度末）

- 参加人数に応じた開催方法の検証
- 指導者研修のあり方、内容の検証
- 総括コーディネータ、コーディネーターによる、連絡調整、安全管理、指導者の派遣管理等についての検証
- 参加者負担の金額設定、支援対象、支援金額等についての検討
- 情報発信

2

①事業実施あたってー地域クラブ活動の実施形態

令和5年度 部活動地域移行事業の全体像



①事業実施あたりで選定方法

令和5年度のモデル実施・検証

○運営主体を民間企業へ委託

指導者派遣 指導者研修 勤怠管理 スケジュール調整
学校とのやりとり トラブル・けが対応 出欠確認
保護者・生徒への連絡 保護者説明会 保険手配 謝金支払い

○全種目で実施

種目によって指導方法、運営方法が異なる。
各種目の地域クラブのあり方について検証。

○全校で実施

各校での環境や同種目による指導者の違いによる影響や、どの学校でも、生徒たちが安心安全に参加できる地域クラブの検証。

○イベントの開催

地域企業・団体によるイベント開催、中高合同練習

①事業実施あたってー地域クラブ活動の実施形態

実行委員会

- メンバー
体育連盟、1.FC箕面、岩谷産業陸上部、ガンバ大阪
サントリーサンバーズ、スポーツ推進委員協議会、
PTA連絡協議会、校長会
(令和5年度から新たに参加)

事務局：箕面市教育委員会事務局
児童生徒指導室、保健スポーツ室
スポーツデータバンク株式会社

部活動の在り方検討プロジェクト会議

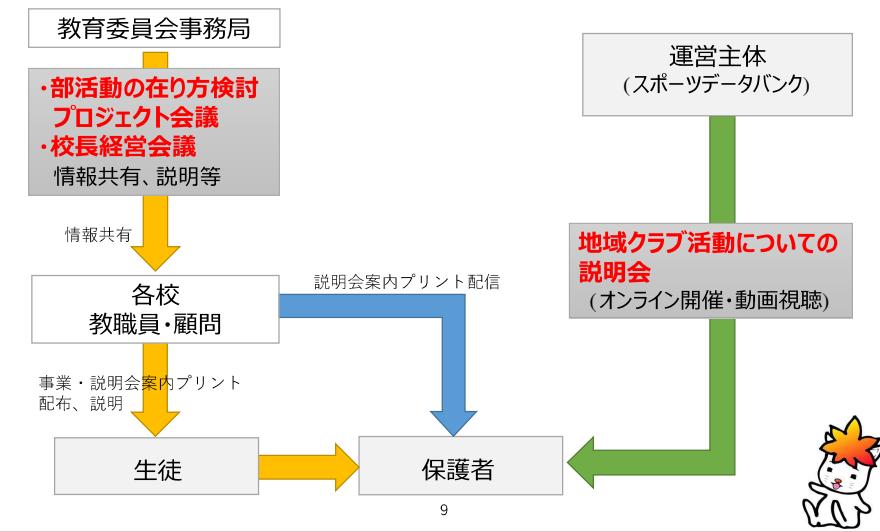
- #### ■メンバー 全中学校の校長・副校長（令和5年度から全校長・副校長に拡大）

事務局：箕面市教育委員会事務局 児童生徒指導室



①事業実施あたってー学校や保護者等への説明

説明の流れ



②状況ー現在の実施状況

■地域クラブモデル実施(予定回数)

一中	テニス	11回
	テニス	11回
	バレー	5回
とどろみ	テニス	5回
	テニス	5回
	バスケットボール	5回
二中	サッカー (五中、六中と合同)	5回
	水泳	1回
	卓球	5回
三中	テニス	5回
	ソフトボール	5回
	バレーボール	5回
四中	テニス	5回
	バスケットボール	5回
	剣道	5回
五中	ソフトボール	5回
	テニス	5回
	テニス	5回
六中	ハンドボール	5回
	ソフトテニス	5回
	バドミントン	5回
彩都	ソフトテニス	5回
	テニス	11回
	テニス	11回
野球 (二中と合同)	野球 (二中と合同)	5回
	陸上	5回

※悪天候、大会等による中止あり

10



②状況ー現在の実施状況

■地域クラブ活動



バレーボール



ソフトボール



テニス



野球



剣道

②状況ー現在の実施状況

■イベント実施



サッカー
(1.FC箕面)
とどろみの森学園



バレーボール
(サントリーサンバーズ)



サッカー
(ガンバ大阪)
第四中学校

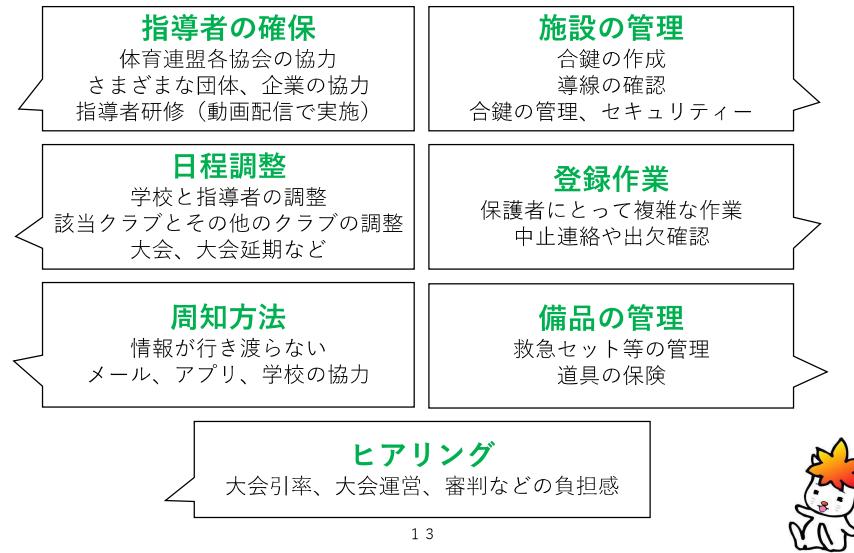


バスケットボール
(SPIRIT ACADEMY)
1年生対象／2年生対象



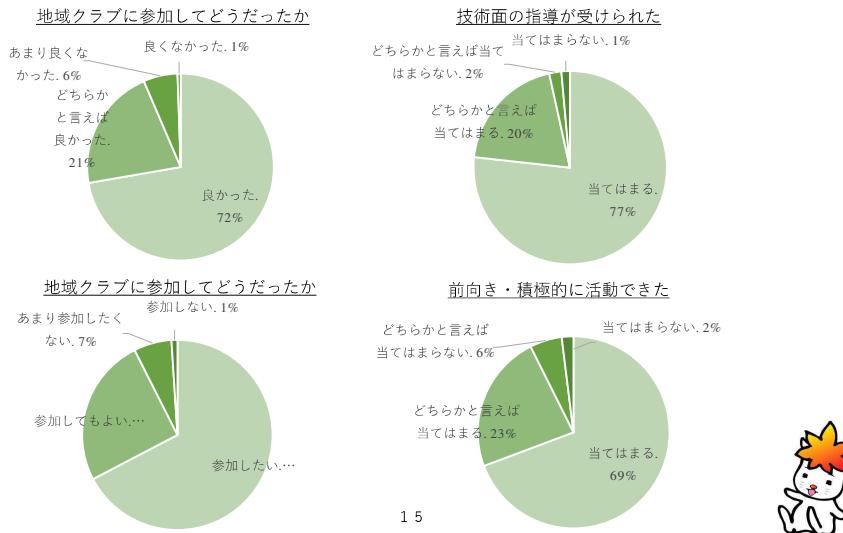
12

②状況ー苦労した（している）点



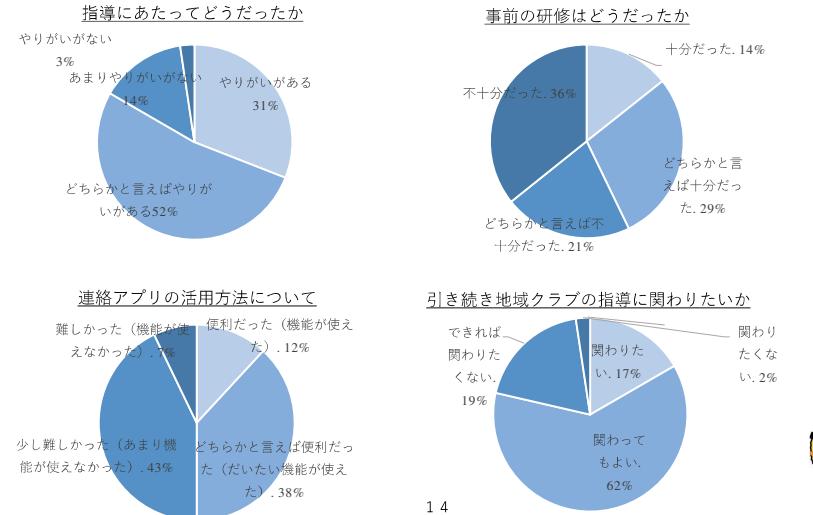
②状況ー取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

アンケート結果（生徒対象）1月26日現在



②状況ー取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

アンケート結果（指導者対象）1月26日現在

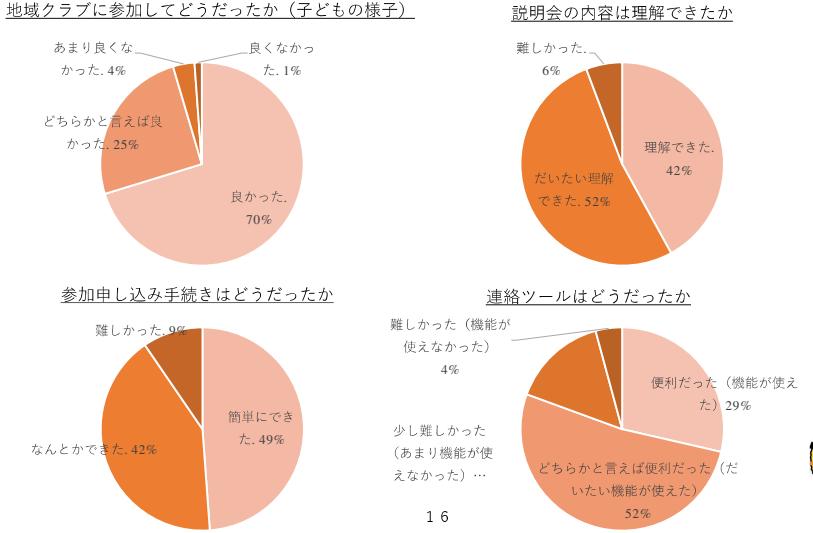


②状況ー取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

アンケート結果（保護者対象）1月26日現在

②状況ー取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

アンケート結果（保護者対象）1月26日現在



②状況ー取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

各中学校から

- ・ 地域クラブ活動をしてほしいという教員が多い。回数を増やしてほしい。
 - ・ 専門的な指導をしてくれて、（専門的な指導ができない）顧問も子どもも喜んでいた。
 - ・ 日程調整のやりとりに時間がかかった。日程が決まってから、指導者の都合で無理になることがあった。
 - ・ 説明会や登録方法等の案内プリントを配布（配信）したが、保護者まで伝わっていないことがあった。顧問から何度も生徒へ声かけをしたが、参加申請をしない家庭もあった。
 - ・ 雨天の決定について、判断が難しい。
(学校によって状況が異なる)
 - ・ ケガ等の対応があった時の保護者への連絡を徹底するべき。



③今後に向けて取り組むことから生まれた新たな課題等について

今後に向けて

- ・ ICTツールの活用（周知方法、登録方法等の改善）
 - ・ 研修の内容の検討・指導者マニュアルの徹底
参加者も指導者も安心安全な活動
 - ・ 意見交換会の内容をホームページで公開
 - ・ 地域の団体や企業、大学、専門学校、高等学校との連携の模索
 - ・ 指導者の人材バンクの構築や資金調達の方法等についての検討
 - ・ 体験教室（イベント）等に参加できる機会を検討
 - ・ 子どものニーズ調査



②状況一取り組みで得られた成果や変化、良い兆候等（アンケート結果等）

意見交換会



- 「子どものニーズとは」 主な意見
- 選択できる、選択肢
　両立、カテゴリー別、複数
- 安心、安全、居場所
　仲間、楽しい、
- 交流
　異学年交流、地域との交流、校種間交流
- 新たな体験の場
　新しいことを知る、会う、複数の種目
　マルチスポーツ、ものづくり、伝統文化
- 指導者の確保
　技術指導だけではない（個別の対応）
　研修、マニュアル、評価制度、
　プラッシュアップ、人材バンク登録システム
　教員の兼職兼業
- 資金調達
　企業の協力、スポンサー、広告
　参加費は仕方ない
- 子どもの意見
　子どもの本音、子どもの主体性
　全聴、充実、登録

令和5年度 スポーツ庁委託事業

「地域運動部活動推進事業」成果報告書

守口市教育委員会事務局
教育部学校教育課



MORIGUCHI CITY, OSAKA

1. はじめに (1) 守口市の様子

人口 : 141,530人（令和5年5月1日時点）

面積 : 12.71km²

人口密度 : 11,135人/km²

学校施設 : 小学校13校 5,379人

中学校7校 2,588人

義務教育学校1校 前期443人 後期205人

（令和5年5月1日時点）

運動施設 : 守口市民体育館

大枝公園

淀川河川公園

部活動数 : 運動部97 文化部28

入部率 : 運動部58.0% 文化部23.2%



MORIGUCHI CITY, OSAKA



3

目 次

1. はじめに

- (1) 守口市の様子
- (2) 取組みの背景

3. 令和5年度の取組み状況

- (1) 実践研究の内容について
- (2) 実践研究の成果等について

2. 事業実施にあたって

- (1) 抱点校の決定
- (2) 地域運動部活動の実施イメージ
- (3) 実施の流れ

4. 今後に向けて

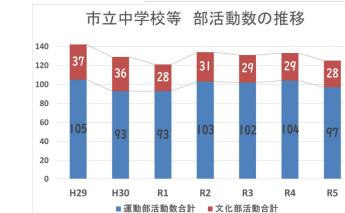


MORIGUCHI CITY, OSAKA

1. はじめに (2) 取組みの背景

◎本市では、生徒数が減少傾向であるものの、運動部の部活動数については、ほぼ横ばいで推移している。このことから、学校や部活動の種目によっては、競技人数の確保が難しい状況や、生徒数の減少から教職員数も減少し、運営体制を整えることが難しい状況があることなどから、部活動数を精査している学校もある。

◎また、部活動が教員の長時間勤務の一因となっている状況に加え、指導経験のない教員の負担、生徒が専門的な指導を受けられないことにもつながるなど、本市でも持続可能性の観点から課題が見られる。



★令和3年度から「地域運動部活動推進事業」による実証研究の取組みを開始



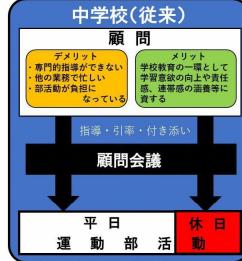
MORIGUCHI CITY, OSAKA

4

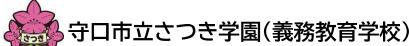
2. 事業実施にあたって (1)拠点校の決定

【令和3年度】

※従来の学校部活動イメージ図



- ・一時期、各学年4クラスだったところから、現在は2クラス程度の規模となり、部活動の数や種目の縮小が進んでいる。
- ・専門的な指導ができる教員の確保に課題がある。
- ・教員の時間外勤務は減少傾向にあるものの、その多くが週末の部活動によるものとなっている。



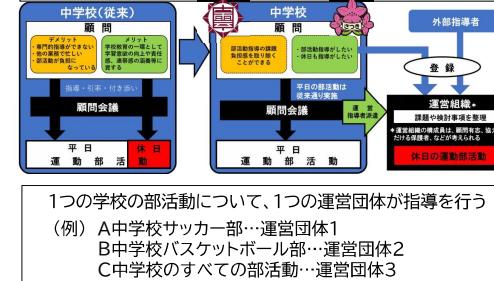
- ・専門的な指導ができる教員の確保に課題がある。
- ※特に、前期課程(小学校)を中心に指導を行う教職員の部活動に対する不安が大きい。
- ・教員の時間外勤務は減少傾向にあるものの、その多くが週末の部活動によるものとなっている。

MORIGUCHI CITY , OSAKA

2. 事業実施にあたって (2)地域運動部活動の実施イメージ

【令和3年度】

当初の守口市ゴールイメージ



1つの学校の部活動について、1つの運営団体が指導を行う

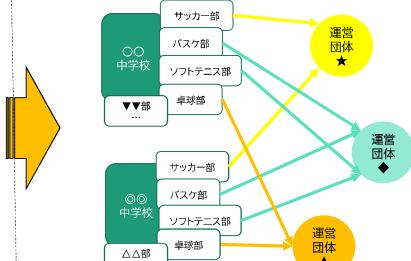
- (例) A中学校サッカー部…運営団体1
B中学校バスケットボール部…運営団体2
C中学校のすべての部活動…運営団体3

〈課題点〉

- ・競技によっては、部員数が少ないと実戦的な練習ができない
- ・1つの中学校のすべての部活動について指導を行うことができる運営団体を見つけることが難しい

【令和4年度以降】

- ・複数の学校の生徒が合同で活動する
- ・競技ごとに地域移行の方策を検討する



〈改善点〉

- ・合同実施により活動の参加人数を確保
- ・競技ごとであれば、運営団体との連携についても幅広く考えることができる

MORIGUCHI CITY , OSAKA

2. 事業実施にあたって (3)実施の流れ

拠点校の決定

運営団体の決定

学校・運営団体間の調整

保護者説明会の実施

地域運動部活動の開始

【拠点校の懸案事項】

- ・取組みについて、生徒や保護者、教職員の理解を得ていくか
- ・運営団体とどのように連携していくか



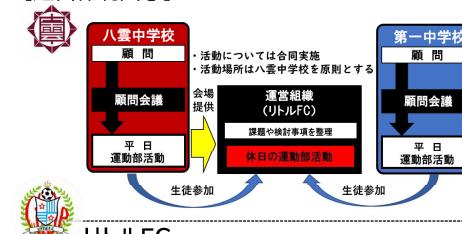
【解決へ向けた取組等】

- ・一度にすべての部活動を対象とせず、顧問の専門的な指導に対する不安や時間外勤務など、学校のニーズに合わせて段階的に進めた
- ・教育委員会が学校へ説明を行うとともに、学校・運営団体間の調整や保護者説明会にも関わって理解促進に努めた

MORIGUCHI CITY , OSAKA

3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について

【運営体制図①】



リトルFC

- ・1985年より八雲小学校(八雲中学校区)を拠点にサッカー指導を始める
- ・八雲中学校区出身の指導者を中心に活動
- ・守口市内では、他に守口小(第一中学校区)、下島小(八雲中学校区)、淀川河川公園、大枝公園で活動
- ・八雲中サッカー部への外部指導歴あり



守口市立第一中学校 令和4年度～

- ・生徒数は増加傾向にあるものの、施設面の課題から活動スペースの確保に課題がある。
- ・専門的な指導ができる教員の確保に課題がある。
- ・教員の時間外勤務は減少傾向にあるものの、その多くが週末の部活動によるものとなっている。

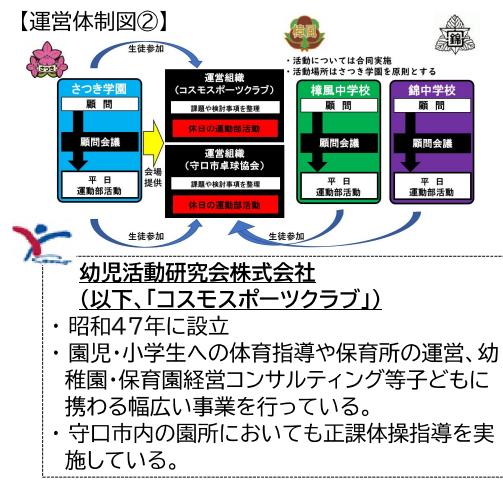
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
1か月あたりの平均的な活動回数	月2～4回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団の指導者
1人あたりの参加会費	なし
1人あたりの保険料	生徒1人あたり：600円/年



MORIGUCHI CITY , OSAKA

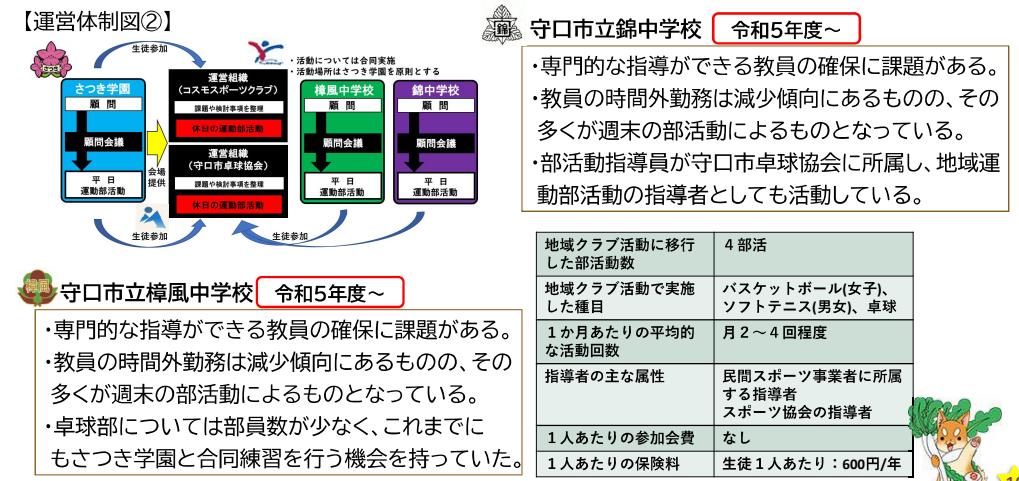
8

3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について



MORIGUCHI CITY, OSAKA

3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について



MORIGUCHI CITY, OSAKA

3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について

【守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会】令和4年度～

守口市における地域運動部活動推進事業を実施するにあたり、関係者の合意形成、実践研究の実施方針の決定、拠点校における実践の共有や検証、域内への普及方法の検討などを行う。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について

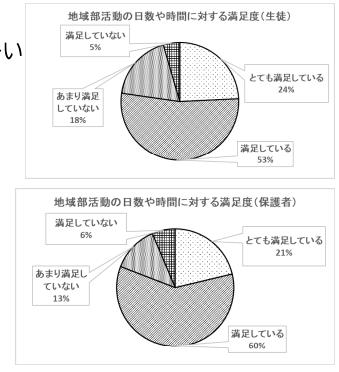
【取組みの中で見られる課題】

大会はすべて学校部活動として参加していることから、大会参加の多い学校や種目については、休日の地域部活動の実施回数が少なくなる。

◎参加生徒や保護者へのアンケートでは、日数や時間に対する満足度

尺度はともに7割以上が「とても満足している」「満足している」と回答しているものの、自由記述欄において双方とも時間の短さや日数の少なさに言及する意見があった。

◎特に屋外の競技では、悪天候による中止等も含めると、地域部活動が長期にわたり実施されないこともあり、学校と運営団体が連携し、丁寧にスケジューリングする必要がある。



MORIGUCHI CITY, OSAKA

11 12

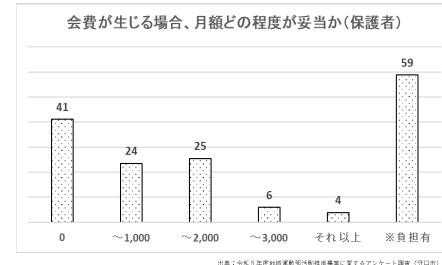
3. 令和5年度の取組状況 (1)実践研究の内容について

【取組みの中で見られる課題】

会費の考え方について、保護者と指導者の間で開きが見られる。

◎参加生徒の保護者へのアンケートの結果、負担なし(0円)の回答が41%、負担ありの回答が59%と、負担が生じることについては理解が進んでいる。一方、月あたりの金額について保護者アンケートでは1,000円までが24%、2,000円までが25%、2,001円以上が10%であった。

◎顧問アンケートでは500~2,000円の間で回答が得られたが、指導者アンケートでは回答が5,000~6,500円に収まるなど、結果に開きが見られた。



MORIGUCHI CITY, OSAKA



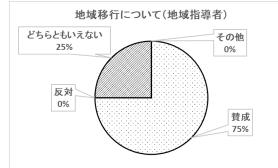
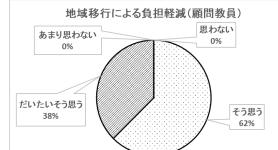
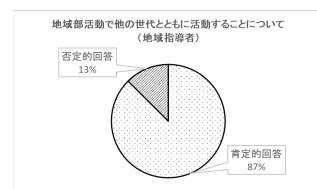
13

3. 令和5年度の取組状況 (2)実践研究の成果等について

【成果②】顧問の負担軽減と地域指導者の理解促進について

対象部活動の顧問へのアンケートでは、地域移行による負担軽減についてすべての回答が「そう思う」、「だいたいそう思う」となった。また、休日の指導者と連携することについて「連携がとりづらい（新たな負担に感じる）」と回答した割合は13%と、効率的な連携が図られている。

地域指導者へのアンケートでも部活動の地域移行について7割以上が賛成と回答しており、取組みをとおして地域移行を肯定的に捉えている様子が見てとれる。他の世代とともに活動することについても肯定的回答が多数を占めており、地域指導者側でも生徒が地域で活動することについてイメージを持っていることがうかがえる。



出典：令和5年度地域活動活性化推進事業に関するアンケート調査（守口市）



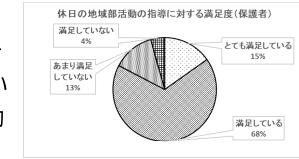
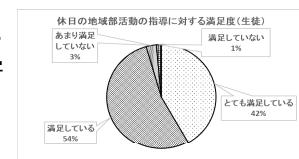
15

3. 令和5年度の取組状況 (2)実践研究の成果等について

【成果①】地域部活動による満足度について

参加生徒へのアンケートの結果、回答者の96%が地域の指導者による指導について「とても満足している」、「満足している」と回答しており、学校の部活動顧問による指導について同様に回答した割合(85%)よりも高いという結果が得られた。

教育委員会、学校、運営団体の連携により保護者説明会を開催する等、取組みの理解促進や適切な運営に努めたことにより、参加生徒の保護者へのアンケートの結果、回答者の75%が地域の指導者による指導について「とても満足している」、「満足している」と回答しており、学校の部活動顧問による指導について同様に回答した割合(73%)よりも高い結果となつた。



出典：令和5年度地域活動活性化推進事業に関するアンケート調査（守口市）

MORIGUCHI CITY, OSAKA

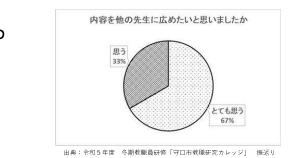


14

3. 令和5年度の取組状況 (2)実践研究の成果等について

【成果③】運営団体との連携について

コスモスポーツクラブの指導者を講師として、教職員を対象に部活動や学校体育の実技指導に係る研修を実施した。参加した教職員へのアンケートの結果、すべての回答者が研修の内容を他の教職員に広めることについて「とても思う」、「思う」と回答し、安全確保やスマールステップの指導について教職員の認識を深めることに繋がった。



出典：守口市立さつき学園「コロナ対策拡大カレンジ」 指定



（さつき学園での練習会の様子）



16

3. 令和5年度の取組状況 (2)実践研究の成果等について



【リトルFC（守口市サッカー連盟）による指導の様子】



【守口市卓球協会による指導の様子】



【コスモスポーツクラブによる指導の様子】



【コスモスポーツクラブによる教職員研修の様子】

MORIGUCHI CITY, OSAKA

4. 今後に向けて

【課題】取組みの拡充

- ・広報による取組紹介や市のSNSの活用により、生徒や保護者等の地域移行に係る理解促進を図る。
- ・拠点校や実施部活動の拡充に向けた指導者の量の確保については、運営団体により困難なところがあるため、引き続き種目ごとに移行することを基本として、一つの種目を複数の団体が指導することも視野に検討を進める。

【課題】費用負担の在り方

- ・部活動に係る経費について、種目によっても金額の違いがあることから、今後、会費等については種目ごとに検討を進める。
- ・保護者の負担を抑える観点から、施設の優先利用や利用料金の減免に加え、例えば学校施設において、運営団体がスポーツ教室等を開催し、徴収した参加費から部活動の運営資金に還元するような取組みなどといった連携の在り方についても検討する。



17



18

MORIGUCHI CITY, OSAKA

令和 6 年 2 月 8 日(木)

「部活動大阪モデル」の実践について

大阪府立金剛高等学校

校長 大崎 弘司

1 はじめに

2 事前対応

3 合同部活動を行うにあたって

4 現状（金剛高校アンケートより）



部活動大阪モデルにおける実践発表

大阪府立河南高等学校
教諭 堀野 亜季

合同部活動実施状況

27クラブ中25チームの状況

※硬式野球、ソフトボールなど既に合同チームとして活動している部活動を除く実施状況

クラブ数 (25)	実施状況	クラブ	特記
3	継続的に実施	男子ソフトテニス 女子バスケ バドミントン	
15	数回実施	女子ソフトテニス 剣道 吹奏楽 等	
3	実施予定	サッカー 陸上 等	感染症等により、実施がキャンセルとなり予定変更しているため
4	実施なし	放送 演劇 文芸 等	金剛高校での活動がない または、土日の活動がない

河南高校概要

*1学年 7クラス (今春8クラスに)

*生徒約820名 クラブ加入率**90%超**

*クラブ数 運動部19 文化部18

各クラブが意欲的に活動中

成果 (戦績等)

軟式野球 (2023年度 国体準優勝)

ソフトテニス (大阪ベスト8)

サッカー (大阪公立校大会ベスト4 現在大会中 U-18 2部参戦中)

男子バスケットボール (大阪16)

女子バスケットボール (U-18 1部リーグ)

ダンス (全国大会) 箏曲 (近畿大会) など

自転車の配置

35台

7月に自転車が配置

これまでに

貸し出し件数 34件

のべ利用生徒数 245人

(自転車登校生徒は自身の自転車を利用)



合同部活動と聞いて

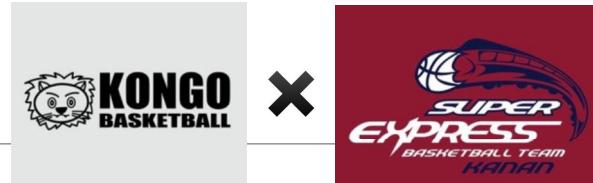
＜合同部活動と聞いたきの教職員の反応＞

- ・ どうなるん？
- ・ 現実的ではない・・・
- ・ 各校の事情や状況、ニーズの違いは・・・

違和感や疑問も多くありましたが

とりあえず、（本校）生徒・チームにとって必要なこと
プラスになることからやってみることに

実際の活動



- ①会場へ移動（本校の場合は移動なし）
- ②活動準備（教員は練習内容確認・打ち合わせ）
- ③活動（活動内容例）
 - a. 合同練習
 - b. 部分的合同練習
 - c. チーム別練習 → 試合形式練習
- ④片付け・移動（教員は活動についての確認・反省など）

事前相談・打ち合わせ

共有内容

- ① 河南の現状
金剛の現状
- ② 河南のニーズ
金剛のニーズ
- ③ 互いの目標・チームの課題
- ④ 日時・場所
(状況により、急にお願い・
変更もある。)



金剛高校までは自転車で約15分





←合同練習



実践形式練習 →



単に試合形式、ゲーム（勝ち負け）ではなく、目的や条件を加えて互いのチームにとっての課題克服に向けたゲーム形式練習とする



合同部活動で心がけていること 大切にすべきこと

*それぞれのチームの生徒を中心に考えながら、
互いのチームにとってチャンスとなる時間にする

*事前、当日に顧問同士が話することで、
その練習が生徒のチャンスになる

*互いのチームの生徒にも声をかけることで、
違った視点で学びが深まる

***回数・内容もその時のチーム状況・ニーズで柔軟に変更していく**
→モデル通りに進めることができがゴールではなく、生徒の成長のチャンスとなる機会にする